

インド学仏教史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその1ー	2	桜井 宗信	3	火	1	1
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその2ー	2	桜井 宗信	4	火	1	2
パーリ語	パーリ語入門	2	西村 直子	3	水	5	3
パーリ語	パーリ語講読	2	西村 直子	4	水	5	4
チベット語	古典チベット語初級文法Ⅰ	2	桜井 宗信	3	月	1	5
チベット語	古典チベット語初級文法Ⅱ	2	桜井 宗信	4	月	1	6
インド学各論	祭式文献講読 新月満月祭における搾乳と酸乳製造	2	西村 直子	5	木	5	7
インド学各論	ヴェーダ文献講読	2	尾園 絢一	6	木	5	8
インド仏教史各論	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読	2	桜井 宗信	5	火	2	9
インド仏教史各論	Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読	2	桜井 宗信	6	火	2	10
インド学演習	インド哲学文献講読	2	尾園 絢一	5	火	4	11
インド学演習	インド哲学文献研究	2	西村 直子	6	水	3	12
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	5	月	3	13
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	6	月	3	14

科目名：インド仏教史概論／ History of Indian Buddhism (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB32102, **科目ナンバリング：**LHM-PHI204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

インド仏教史概説－その 1－

2. Course Title (授業題目)：

Outline of Indian Buddhist History 1

3. 授業の目的と概要：

釈尊（紀元前 5 世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、釈尊自身の思想とその展開の一端をいわゆる「部派仏教」の段階まで把握することを目指す。

4. 学習の到達目標：

釈尊の思想を中心とした初期仏教に関する基礎知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 仏教成立時代の社会と思想の概略
2. 釈尊の生涯と主な事蹟- 1 -
3. 釈尊の生涯と主な事蹟- 2 -
4. 釈尊の生涯と主な事蹟- 3 -
5. 釈尊の思想- 1 -
6. 釈尊の思想- 2 -
7. 釈尊の思想- 3 -
8. 仏教教団の成立と展開- 1 -
9. 仏教教団の成立と展開- 2 -
10. アショーカ王と「法」- 1 -
11. アショーカ王と「法」- 2 -
12. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想- 1 -
13. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想- 2 -
14. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想- 3 -
15. 説一切有部を中心とした部派仏教の思想- 4 -

6. 成績評価方法：

レポート [100%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。

8. 授業時間外学習：

レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。

9. その他：

最初の授業において参考書、及びレポートの提出方法等について説明する。

なお、参考書は授業において随時追加紹介を行う。

科目名：インド仏教史概論／ History of Indian Buddhism (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB42102, **科目ナンバリング：**LHM-PHI204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

インド仏教史概説－その 2－

2. Course Title (授業題目)：

Outline of Indian Buddhist History 2

3. 授業の目的と概要：

インド大乘仏教史の概略を理解し、『般若経』等の初期大乘經典について学んだのち、中観派・瑜伽行唯識派という大乘仏教思想を代表する二大学派の内容を、基本的な専門用語の理解にも留意しながら把握することを目指す。

4. 学習の到達目標：

インドにおける大乘仏教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 大乘仏教の出現-1-
2. 大乘仏教の出現-2-
3. 初期大乘仏教經典概説-1-
4. 初期大乘仏教經典概説-2-
5. 初期大乘仏教經典概説-3-
6. ナーガールジュナと初期中観思想-1-
7. ナーガールジュナと初期中観思想-2-
8. 中期中観思想-1-
9. 中期中観思想-2-
10. 中期中観思想-3-
11. 瑜伽行唯識派の思想-1-
12. 瑜伽行唯識派の思想-2-
13. 瑜伽行唯識派の思想-3-
14. 瑜伽行唯識派の思想-4-
15. 予備時間

6. 成績評価方法：

レポート [100%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教員が作成したプリントを配布。

参考書は、授業時に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。

9. その他：

「インド仏教史概説－その 1－の既習者であること」を履修の原則とする。

科目名：パーリ語／ Pali

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：西村 直子（非常勤講師）

講義コード：LB33502, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

パーリ語入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Pali language

3. 授業の目的と概要：

サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。 Geiger, A Pali Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pali Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。前期はブッダの前生譚である「ジャータカ」を扱う。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。

4. 学習の到達目標：

サンスクリット語の知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション (教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
- 2 「スンスマラー・ジャータカ」 (1)
- 3 同 (2)
- 4 同 (3)
- 5 同 (4)
- 6 「バカ・ジャータカ」 (1)
- 7 同 (2)
- 8 同 (3)
- 9 同 (4)
- 10 「シーハチャンマ・ジャータカ」
- 11 「ササ・ジャータカ」 (1)
- 12 同 (2)
- 13 同 (3)
- 14 同 (4)
- 15 同 (5)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

Geiger—Norman, A Pali Grammar, D. Anderson, A Pali Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが、自分で持っていて後まで役立つ。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：

初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。

科目名：パーリ語／ Pali

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：西村 直子（非常勤講師）

講義コード：LB43502, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

パーリ語講読

2. Course Title (授業題目)：

Pali Reader

3. 授業の目的と概要：

文法事項，シンタクス，仏教用語などについて，繰り返し復習確認しながら，Anderson の Reader から抜粋して読む。ジャータカ，ブッダの伝記，ダンマパダ，ミリンダパンハーなど，言語と内容の両面を大切にして取り組む。

4. 学習の到達目標：

前期に習得した能力を基に，比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 「マタカバッタ・ジャータカ」(1)
- 2 同 (2)
- 3 「ブッダの誕生」(1)
- 4 同 (2)
- 5 「四門出遊」(1)
- 6 同 (2)
- 7 「ボーディサッタの出家」 (1)
- 8 同 (2)
- 9 同 (3)
- 10 「ブッダの死」(1)
- 11 同 (2)
- 12 同 (3)
- 13 『ダンマパダ』より
- 14 『ミリンダパンハー』より(1)
- 15 同 (2)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%)，授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

Geiger—Norman, A Pali Grammar, D. Anderson, A Pali Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが，自分で持っていて後も役立つ。辞書，参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する

8. 授業時間外学習：

受講者は単語を調べ，語形を確定し，訳すように努力すること。予習が難しい場合は，授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：

初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。

科目名：チベット語／ Tibetan

曜日・講時：前期 月曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB31101, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典チベット語初級文法 I

2. Course Title (授業題目)：

Classical Tibetan Grammar

3. 授業の目的と概要：

チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。

教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、読解力の養成を計る。

4. 学習の到達目標：

(1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。

(2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. チベット文字発音法・正書法-1-

2. チベット文字発音法・正書法-2-

3. チベット文字発音法・正書法-3-

4. 古典チベット語初級文法-1-

5. 古典チベット語初級文法-2-

6. 古典チベット語初級文法-3-

7. 古典チベット語初級文法-4-

8. 古典チベット語初級文法-5-

9. 古典チベット語初級文法-6-

10. 古典チベット語初級文法-7-

11. 古典チベット語初級文法-8-

12. 古典チベット語初級文法-9-

13. 古典チベット語初級文法-10-

14. 古典チベット語初級文法-11-

15. 古典チベット語初級文法-12-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（40%）、授業で示される理解度（60%）

7. 教科書および参考書：

藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；インド学仏教史研究室に備え付けがある）

8. 授業時間外学習：

予習時には教科書記載チベット文字例文の音読練習を行い、復習時には新出事項の確認-発音法・正書法学習時には各文字の発音・書取練習、文法学習時には新出チベット語単語や重要文法用語の記憶など-を行う。

9. その他：

サンスクリット語初級文法の既習者であることを原則とする。

また、教科書は研究室備え付けのものを各自コピーし、講義に臨むこと。

科目名：チベット語／ Tibetan

曜日・講時：後期 月曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB41101, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

古典チベット語初級文法Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Classical Tibetan Grammar & Reading

3. 授業の目的と概要：

チベット人学僧 Tāranātha の著した『インド仏教史』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。本期は第 15 章の途中より読み始める予定。

「歯応えのある」文章を相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた充分な予習を行うことにより、読解力の深化を図る。

4. 学習の到達目標：

古典チベット語によって著された文献の読解力を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『インド仏教史』訳読-1-
2. 『インド仏教史』訳読-2-
3. 『インド仏教史』訳読-3-
4. 『インド仏教史』訳読-4-
5. 『インド仏教史』訳読-5-
6. 『インド仏教史』訳読-6-
7. 『インド仏教史』訳読-7-
8. 『インド仏教史』訳読-8-
9. 『インド仏教史』訳読-9-
10. 『インド仏教史』訳読-10-
11. 『インド仏教史』訳読-11-
12. 『インド仏教史』訳読-12-
13. 『インド仏教史』訳読-13-
14. 『インド仏教史』訳読-14-
15. 『インド仏教史』訳読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（40%）、授業で示される理解度（60%）

7. 教科書および参考書：

Tāranātha：『インド仏教史』（コピーを配布する）

8. 授業時間外学習：

予習時に辞書を用いながら自らテキストの翻訳を行い、授業で発表出来るように準備する。

9. その他：

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。また使用すべき辞書については授業の中で紹介する。

科目名：インド学各論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：西村 直子（非常勤講師）

講義コード：LB54501, 科目ナンバリング：LHM-PHI303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

祭式文献講読 新月満月祭における搾乳と酸乳製造

2. Course Title (授業題目)：

Vedic literature

3. 授業の目的と概要：

ヴェーダ祭式の伝承はマントラ（祝詞、祭詞、B.C. 1200 年頃以降）を根幹とし、これに対するブラーフマナ（B.C. 8 世紀頃以降）を経てシュラウターストラ（祭式綱要書、B.C. 6 世紀頃以降）において体系化されるに至る。ブラーフマナは、マントラ（祝詞、祭詞）の解釈、祭式行為や道具、供物等の由来を語る神話及び神学議論などを主な内容とし、シュラウターストラの土台を為す部分とウパニシャッド（B.C. 600 年頃以降）に展開される哲学議論の萌芽的部分とを併せ持つ。本講義では新月満月祭の準備日の晩に行われる搾乳と酸乳（dadhi）製造のマントラとブラーフマナを取り上げ、読解演習を行う。ヤジールヴェーダ諸学派のサンヒター及びブラーフマナを用いる。ヴェーダ祭式の基本的伝承スタイルに触れ、ヴェーダの宗教及び祭式文献に関する知識を得るとともに、サンスクリット語の文法・語彙についても更なる理解の深化を目指す。『マイトラーヤニー サンヒター』『カタ・サンヒター』『タイッティリーヤ・サンヒター』『ヴァーージャサネーイ・サンヒター』『タイッティリーヤ・ブラーフマナ』『シャタパタ・ブラーフマナ』をテキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, McDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション（テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明）

2 Maitrāyaṇī Samhitā I 1,3 (1)

3 同 (2)

4 同 IV 1,3 (1)

5 同 (2)

6 同 (3)

7 Kaṭha-Samhitā I 3 (1)

8 同 XXXI 2 (2)

9 同 (3)

10 Taittirīya-Samhitā I 1,3, Taittirīya-Brahmaṇa III 2,3 (1)

11 同 (2)

12 同 (3)

13 Vājasaneyi-Samhitā I 2-4, Śatapatha-Brahmaṇa I 7,1 (1)

14 同 (2)

15 同 (3)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（30%）、授業で示される理解度（70%）

7. 教科書および参考書：

Maitrāyaṇī Samhitā 及び Kaṭha-Samhitā (Ed. Schröder), Taittirīya-Samhitā (Ed. Keith), Taittirīya-Brahmaṇa (Ed. Ānandāśrama Sanskrit Series), Vājasaneyi-Samhitā (Ed. Weber), Śatapatha-Brahmaṇa (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); MAYRHOFFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK: Altindische Syntax; WHITNEY: Sanskrit Grammar 等。

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半では毎回 7～9 詩節読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学各論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：尾園 絢一 (非常勤講師)

講義コード：LB64501, **科目ナンバリング：**LHM-PHI303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ヴェーダ文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Vedic Literature

3. 授業の目的と概要：

インド最古の文献『リグヴェーダ』を中心とするヴェーダ文献を講読し、文献学的訓練を行う。今学期はヴァルナ讃歌を講読する。音韻、形態、シンタックス、意味、語源などの点から語形を分析し、原典の読解に取り組む。

4. 学習の到達目標：

- ・『リグヴェーダ』の原典を文法的、語源的に一語一語分析することができる。
- ・古インドアーリヤ語 (サンスクリット) 歴史文法の基礎を身につける。
- ・基本図書、関連図書の使い方を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 ヴァルナ讃歌 (RV I 25)
- 3 ヴァルナ讃歌 (RV I 25)
- 4 ヴァルナ讃歌 (RV I 25)
- 5 ヴァルナ讃歌 (RV I 25)
- 6 ヴァルナ讃歌 (RV II 28)
- 7 ヴァルナ讃歌 (RV II 28)
- 8 ヴァルナ讃歌 (RV VII 86-89)
- 9 ヴァルナ讃歌 (RV VII 86-89)
- 10 ヴァルナ讃歌 (RV VII 86-89)
- 11 ヴァルナ讃歌 (RV VII 86-89)
- 12 ミトラ・ヴァルナ讃歌 (RV VII 60-66)
- 13 ミトラ・ヴァルナ讃歌 (RV VII 60-66)
- 14 ミトラ・ヴァルナ讃歌 (RV VII 60-66)
- 15 ミトラ・ヴァルナ讃歌 (RV VII 60-66)

6. 成績評価方法：

平常点 (40%), 予習 (30%), 授業内容の理解度 (30%)

7. 教科書および参考書：

Aufrecht 校訂テキストのコピーを授業前に準備する。関連図書、先行研究については毎回の授業で紹介する。

他の参考図書：

H. Grassmann, Wörterbuch des Rigveda (1872-1885), M. Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoirischen (1986-2001), T. Gotō, Old Indo-Aryan Morphology (2013), A.A. MacDonell, Vedic Grammar (1910), etc.

8. 授業時間外学習：

毎回の授業の予習と復習を行うこと。予め語形を分析し、訳すように努力すること。語彙や文法を詰め込むのではなく、原理を理解することが大事である。

9. その他：

受講者はサンスクリット語初級の知識を有すること。

科目名：インド仏教史各論／ History of Indian Buddhism (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB52202, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読

2. Course Title (授業題目)：

rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan : reading

3. 授業の目的と概要：

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第4代管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

4. 学習の到達目標：

インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ現観』講読-1-
2. 『タントラ現観』講読-2-
3. 『タントラ現観』講読-3-
4. 『タントラ現観』講読-4-
5. 『タントラ現観』講読-5-
6. 『タントラ現観』講読-6-
7. 『タントラ現観』講読-7-
8. 『タントラ現観』講読-8-
9. 『タントラ現観』講読-9-
10. 『タントラ概論』講読-10-
11. 『タントラ現観』講読-11-
12. 『タントラ現観』講読-12-
13. 『タントラ現観』講読-13-
14. 『タントラ現観』講読-14-
15. 『タントラ現観』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%), 授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po cheñi ljon śiñ, 『Sa skya 派全書』Vol.3 (東洋文庫刊), pp.1-70.

8. 授業時間外学習：

予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

9. その他：

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド仏教史各論／ History of Indian Buddhism (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB62202, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Grags pa rgyal mtshan 著『タントラ現観』の原典講読

2. Course Title (授業題目)：

rGyud kyi mñon par rtogs pa of Grags pa rgyal mtshan : reading

3. 授業の目的と概要：

チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第4代管長を務めた Grags pa rgyal mtshan の代表作の1つ『タントラ現観』(rGyud kyi mñon par rtogs pa)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

4. 学習の到達目標：

インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ現観』講読-1-
2. 『タントラ現観』講読-2-
3. 『タントラ現観』講読-3-
4. 『タントラ現観』講読-4-
5. 『タントラ現観』講読-5-
6. 『タントラ現観』講読-6-
7. 『タントラ現観』講読-7-
8. 『タントラ現観』講読-8-
9. 『タントラ現観』講読-9-
10. 『タントラ概論』講読-10-
11. 『タントラ現観』講読-11-
12. 『タントラ現観』講読-12-
13. 『タントラ現観』講読-13-
14. 『タントラ現観』講読-14-
15. 『タントラ現観』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%), 授業で示される理解度 (60%)

7. 教科書および参考書：

rGyud kyi mñon par rtogs pa Rin po cheñi ljon śiñ, 『Sa skya 派全書』Vol.3 (東洋文庫刊), pp.1-70.

8. 授業時間外学習：

予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

9. その他：

「古典チベット語初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド学演習／ Indological Studies (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：尾園 絢一 (非常勤講師)

講義コード：LB53307, **科目ナンバリング：**LHM-PHI311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

インド哲学文献講読

2. Course Title (授業題目)：

Indian Philosophical Literature

3. 授業の目的と概要：

家長の義務、共同体の規範、慣習を定めた、最古の法経 (Dharmasūtra) の一つである Āpastamba Dharmasūtra を講読する。ヴェーダ文献やハラダッタ注の記述と比較しながら読み解き、ポスト・ヴェーダ期の社会、バラモン教の世界観の理解を目指す。

4. 学習の到達目標：

サンスクリット語の基本原理の理解、読解力の向上、文献学的手法の習得を目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 総則 1 (ĀpDhS I 1)
3. 総則 2 (ĀpDhS I 1)
4. 入門 1 (ĀpDhS I 1, 1)
5. 入門 2 (ĀpDhS I 1, 1)
6. 入門 3 (ĀpDhS I 1, 1)
7. 学生期 1 (ĀpDhS I 1-2)
8. 学生期 2 (ĀpDhS I 1-2)
9. 学生期 3 (ĀpDhS I 1-2)
10. 学生期 4 (ĀpDhS I 1-2)
11. 学生期 5 (ĀpDhS I 1-2)
12. 学生期 6 (ĀpDhS I 1-2)
13. 学生期 7 (ĀpDhS I 1-2)
14. 学生期 8 (ĀpDhS I 1-2)
15. 学生期 9 (ĀpDhS I 1-2)

6. 成績評価方法：

平常点 (40%), 予習 (30%), 授業内容の理解度 (30%)

7. 教科書および参考書：

G. Bühler の校訂テキストのコピーを配布する。

その他の参考書：

G. Bühler, The Sacred Law of the Āryas as taught in the Schools of Āpastamba, Gautama, Vāsiṣṭha, and Baudhāyana (Sacred of Books of the East).

E. Friedrich, Das Āpastamba-Dharmasūtra—Aufbau und Aussage (1993)

8. 授業時間外学習：

予め語形を分析し、訳しておくこと。

9. その他：

受講者はサンスクリット語初級の知識を有すること。

科目名：インド学演習／ Indological Studies (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：西村 直子 (非常勤講師)

講義コード：LB63308, **科目ナンバリング：**LHM-PHI311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

インド哲学文献研究

2. Course Title (授業題目)：

Indian Philosophical Literature

3. 授業の目的と概要：

本講義では、『シャタパタ・ブラーフマナ』XI 5, 1 (B.C. 650 頃以降) に採録される「プルーラヴァースとウルヴァシー」の神話を取り上げ、読解演習を行う。この神話は人間の王プルーラヴァースがアプサラスのウルヴァシーとの結婚、別離を経て、祭式に用いる特別な火（祭火）を獲得するまでを描き、祭火の起源を語る神話となっている。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Weber が校訂した Śatapatha-Brahmaṇa をテキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ブラーフマナの講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2 Śatapatha-Brahmaṇa XI 5, 1

3 同 (2)

4 同 (3)

5 同 (4)

6 同 (5)

7 同 (6)

8 同 (7)

9 同 (8)

10 同 (9)

11 同 (10)

12 同 (11)

13 同 (12)

14 同 (13)

15 同 (14)

6. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)

7. 教科書および参考書：

Śatapatha-Brahmaṇa (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); MAYRHOFFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTÔ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar, etc.

8. 授業時間外学習：

授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史演習／ History of Indian Buddhism (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB51304, **科目ナンバリング：**LHM-PHI312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：

Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading

3. 授業の目的と概要：

Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前年に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（40%）、授業で示される理解度（60%）

7. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

8. 授業時間外学習：

予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

9. その他：

「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。

科目名：インド仏教史演習／ History of Indian Buddhism (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：桜井 宗信（教授）

講義コード：LB61305, **科目ナンバリング：**LHM-PHI312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：

Abhidharmakośa of Vasubandhu : reading

3. 授業の目的と概要：

Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では前期に引き続き、同書第2章（「根品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

6. 成績評価方法：

授業への準備状況（40%）、授業で示される理解度（60%）

7. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：Abhidharmakośa-bhāṣya of Vasubandhu, Ed. by P.Pradhan, Patna, 1967.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

8. 授業時間外学習：

予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

9. その他：

「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。